



京王バス路線廃止、小田急バス減便問題

狛江市 (道路交通課) に対応を要請

東野川地域のバス問題（京王バスの「ハイタウン折返場」つつじヶ丘駅南口」路線廃止、小田急バス「ハイタウン折返場」喜多見駅「減便」の改善を求めて、狛江市の道路交通課（課長が対応）に要望をおこなってきました（写真）。

この間、重国たけしが京王バス・小田急バスの各本社を訪れて要請し、バス会社からも、「狛江市が主催して市民（利用者）の声を聞く場が設けられるなら出席を検討する」などと回答を得ていることも伝え（詳しくは「重国たけしまちづくり



ニュース」No.5参照）重国たけしのHPに掲載）、市主催の懇談会を開催してもらおうよう求めました。

以下、要請内容のポイントを紹介いたします。

狛江市道路交通課 様

日本共産党狛江市

環境まちづくり

推進室長 重国たけし

(4月7日)

東野川地域では、京王バスの路線廃止、小田急バスの減便により、住民の「暮らしの足」に大きな困難がもたらされています。狛江市として、改善に向けての取り組みをお願いいたします。

廃止等について、狛江市としてバス会社に参加を求め、住民の要望を聞く懇談の場を設けてください。

先日、日本共産党市議会としてバス会社に対して「『住民の足』を確保するための狛江市からの要請に真摯に対応していただくこと」を要望したところ、「真摯に対応させていただきます。狛江市さんが説明会や懇談会などを設けていただければ出席を検討させていただきます」と返事もありません。市・バス会社・住民の懇談会の実現をお願いいたします。

2、東野川地域等の住民の「暮らしの足」回復の実現へのご尽力をお願いいたします。

京王バス、小田急バスに対して、「つつじヶ丘駅―調布駅」便や「覚東―または「明照院前」を通過するバス便について

「ハイタウン折返場」經由便を一時間に一本程度設けること、「狛江ハイタウン―喜多見駅系統」（喜01）のバス便を増やすことなどが当面する現実的な対応の一つと考えます。

狛江市としても、「こまバス」のルートを「ハイタウン折返場」を経由するよう変更することや、グリーンスローモビリティなどの別の「足の確保」手段の実施を検討してください。

バス会社に対して財政的支援を行い、路線維持・回復を求めること東京都や国に対して、地域の足を守る手段（財政支援）の実施を求めることなどもご検討ください。など。

住民の「暮らしの足」の回復に向けて、狛江市の取り組みを重ねてお願いいたします。

以上

1、「つつじヶ丘駅南口―狛江ハイタウン折返場」バス路線の